

目的 着装したいイメージのシルエットからパターン化するためには、衣服の構造線やゆとり量によって、着衣形態がどのような様相を呈するかを把握しておく必要がある。そこで、本研究では、衣服型とゆとり量の相異によって、着衣の間隙はどのようにあられ、そのシルエットはどうであるかの基礎資料を得ることを目的として実験を行った。

方法 立体裁断で得た構造線の異なる4面、8面、10面のフィットした胴部原型及びそれぞれに5%、15%のゆるみを加えた9種、各種胴部原型5種、合計14種類の着衣をシーチングで製作した。同一ボディ(フェアレディ9AR)に着衣させ、バストラインを基準に上下2cm間隔にレーザ光線による形態描画器によって横断面形状を採取した。断面形状の中心からの距離を測定し、着衣の広がりと同隙量を求めた。また、前後側面のシルエッター写真を撮影して、横径、矢状径、角度ならびに面積を測定して分析した。

結果 横断面形状の中心からの距離が最も大となるのは、4面、8面、10面がB.L.~B.L.上4cmにかけてであるのに対し、割り出し式はB.L.から下方である。中心からの距離の標準偏差が小さいのは、B.L.から下方W.L.にかけてである。中心からの距離が着衣によって異なる位置は、前面よりも後面である。間隙量の総合計と各着衣の型紙の総面積との相関は $r=0.931$ と高い。また、着衣の面積が多くなると、間隙量は位置相互の間で相関が高くなる。型紙総面積を100として、前面、後面、側面に見える着衣のシルエットの割合は、前面より後面が大であり、側面は後面の約半分である。